

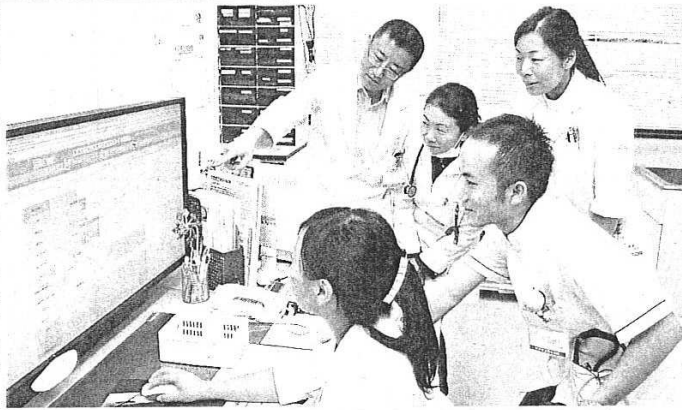
誤接種防止へ新システム

日程や薬剤適正管理

静岡市立清水病院小児科

種類や頻度が多い子供の予防接種を一層安全、確実に行おうと、静岡市立清水病院の小児科が新システムを開発した。誤接種につながりかねない要因をバーコード管理で排除するとともに、子供一人ずつに「デジタル母子手帳」を作成し、接種忘れを防ぐ。11月上旬から段階的に運用を始める。

予防接種は時期や前回接種からの間隔が決まっている。特に1〜6カ月の乳児は種類と回数が多い。体調によっては、来院しても接種ができないことがあり、個々に応じた日程管理が必要になる。システムは医療用ソフト会社テクノアスカ（名古屋）と共同開発した。受付で子供用と院内用にバーコードを発行する。診察室で双方を照合するとともに、薬剤の種類と製造番号を読み取る。接種後には次回の接種内容と日時を画面で選択、



新システムの運用に向け、端末の扱いを確認する小児科の医師たち＝23日、静岡市清水区の市立清水病院

確認できる。これらのデジタル母子手帳に反映され、必要に応じて印刷

して保護者に渡す。

従来、各段階での確認と記録は、医師が目で確かめ、手入力していた。機械で読み取ることを入力ミスを排除するとともに、正しい薬剤かどうかの再チェックをかける。薬剤製造番号を控えるため、接種後に薬の問題が判明した場合も迅速な個別対応が可能になる。

同病院小児科は月、木曜の午後に予防接種外来を開き、週に120〜150人に接種する。医師が細心の注意を払っても、多くの子供を診る中で、接種内容や時期を間違えそうになる「ひやり」事例が1〜2カ月に1件程度あるという。

同病院小児科の上牧務科長は「機械の支援で人的ミスを根絶するのが狙い。改善を重ねて保護者の利便性も高めた」と話した。